
2026年度 東京都 I 類B
教養論文
講評&解答例

れっく **LEC** 東京リーガルマインド



0 001112 256590

KL25659

教養論文

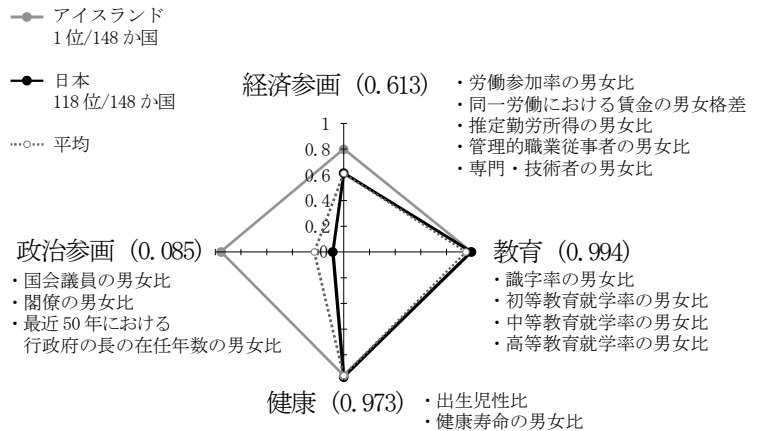
問題

- (1) 別添の資料から、性別にとらわれず、誰もが活躍できる社会の実現に向けて、あなたが重要であるとする課題を200字程度で簡潔に述べよ。
- (2) (1)で述べた課題に対して、都はどのような取組を進めるべきか、あなたの考えを述べよ。
なお、解答に当たっては、解答用紙に(1)、(2)を明記すること。

資料 1

2025 年版ジェンダー・ギャップ指数の国際比較

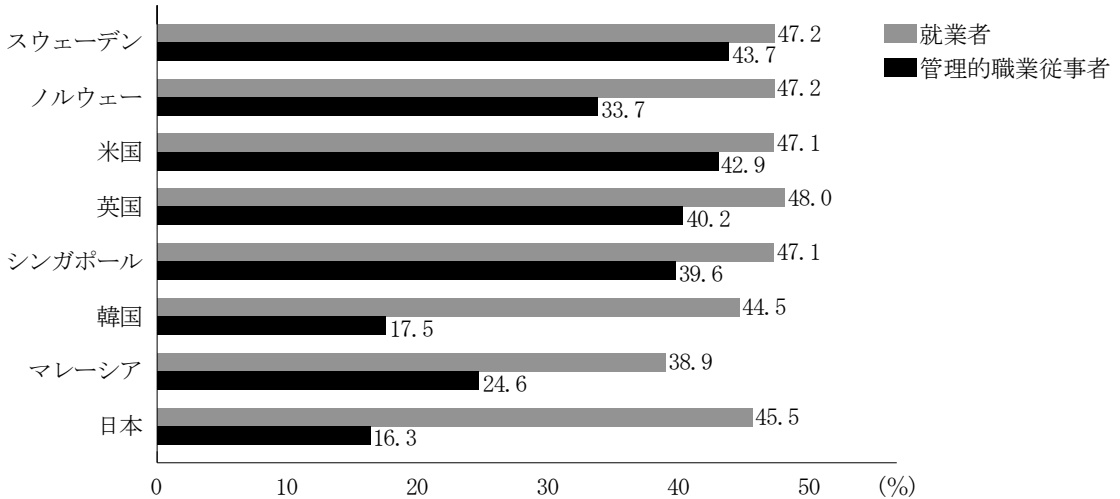
1 位	アイスランド
2 位	フィンランド
3 位	ノルウェー
4 位	英国 G7首位
101 位	韓国
103 位	中国
117 位	アンゴラ
118 位	日本 G7最下位
119 位	ブータン



注 1：ジェンダー・ギャップ指数・・・スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が、経済・教育・健康・政治の分野ごとに各国の男女間の格差を数値化しランク付けしたもの

注 2：括弧内の数値は、日本の指数

各国の就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合

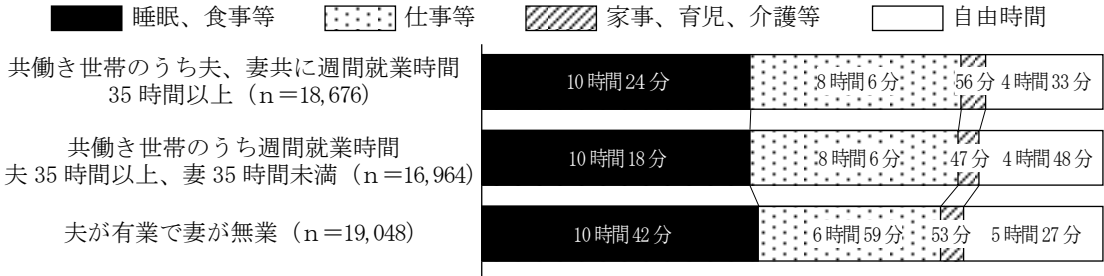


出典：「東京都の女性活躍施策・成果のご紹介」（令和 7 年 12 月）より作成

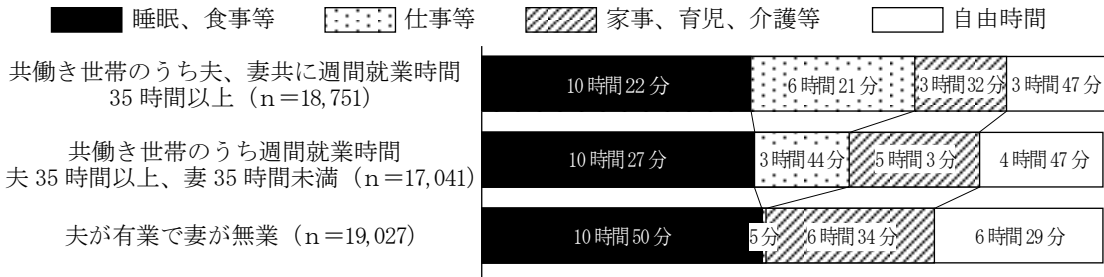
資料2

世帯形態別夫婦の生活時間（週平均）（全国）

<夫>



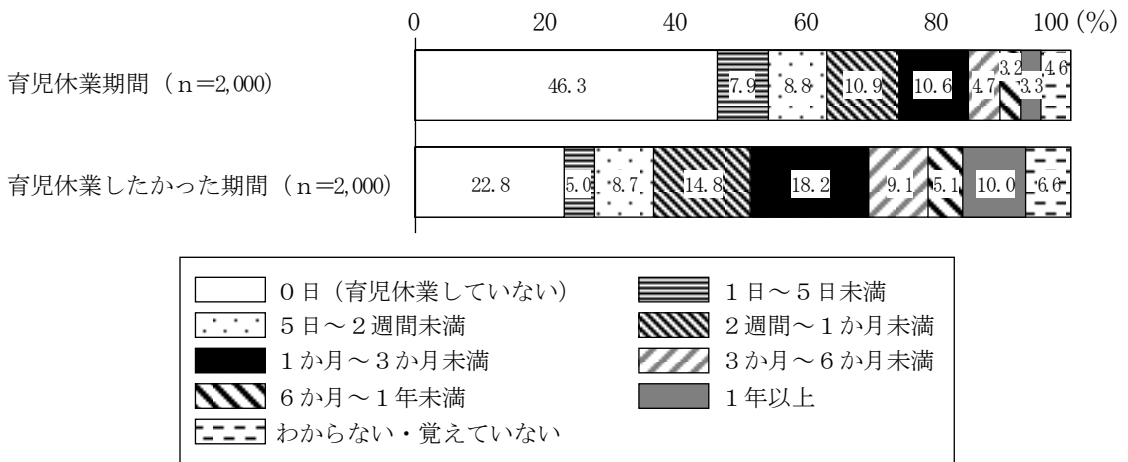
<妻>



注：数値は四捨五入しているため合計が24時間とならないことがある。

出典：「東京の男女平等参画データ2025」（令和7年3月）より作成

育児休業した期間及び育児休業しなかった期間（都内の男性子育て世代）



注：数値は四捨五入しているため合計が100%とならないことがある。

出典：「令和7年度男性の家事・育児実態調査報告書」（令和7年11月）より作成

資料3

※この部分の資料は、著作権上の理由により掲載できません。

資料はアンコンシャスバイアスに関する新聞記事で概要は以下のようなものでした。

「学校生活 すり込まれる男女の役割」

中高生の学校生活に潜む「アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）」に関する調査結果に関する話題。ジェンダーによる偏見には男女差があり、女子は「頭のいい学校に行かなくていい」など「しなくていい」と言われる傾向が強い一方、男子は「重いものを運ぶ」など「やらされる」経験が女子の倍以上ある。こうした言葉は親族や教員から発せられることが多く、大人は無意識の役割の押し付けに注意する必要があるという内容。

出典：令和7年8月29日 朝日新聞朝刊より作成

論 点

- 1 資料1～3から抽出できる、性別にとらわれず、誰もが活躍できる社会の実現に向けて重要であるとする課題
- 2 1に対する都の取組

解答例

(1) 資料1から、日本のジェンダーギャップ指数がG7最下位たる主要因として女性管理職割合の低さが指摘できる。資料2では、家事、育児、介護等の負担が女性に偏る一方、2週間以上の男性の育児休業取得が叶いにくい傾向が読み取れる。資料3では、中高生は親族や教員などからアンコンシャスバイアスを刷り込まれやすいことが示されている。以上から、女性管理職割合の向上、男性の家事、育児、介護等への参画促進、アンコンシャスバイアス解消に向けた取組の推進が課題である。(220字)

(2) 以上の課題に対し、都は以下の取組を進める必要がある。

第1に、女性管理職割合向上のために、管理職を目指す女性への支援、職場内のアンコンシャスバイアス解消の取組を推進する。女性管理職が少ない要因として、身近にロールモデルがおらず、女性管理職に必要なスキルやマインド等を学べる機会の乏しいことが考えられる。また、管理職は男性が担うものといったアンコンシャスバイアスが職場内に存在し、女性の意欲や能力が十分に評価されない場合もあるのではないかと。そこで都は、管理職を目指す女性を対象に、企業の枠を超え、女性経営者との交流やワークショップを通じて管理職に必要なマインドやスキル等が学べる研修プログラムを定期的実施する。他方、職場内のアンコンシャスバイアス解消については、とりわけ経営者、人事担当者の果たす役割が大きい。よって都は、両者それぞれに対し、人事異動や昇進をはじめとする職場内のアンコンシャスバイアスに気づき、組織風土の変容を促すセミナーを実施する。これらの取組により、意欲ある女性が管理職を目指しやすくなり、公正な処遇も確保され、女性管理職割合の向上が期待できる。

第2に、男性の育業、ならびに家事、育児、介護等の分担に対する行動変容を推進する。具体的には、都は2週間以上の育業取得や職場復帰を支援するとともに、その後も継続して取得を促進する企業を育業取得率や日数に応じて認定する。併せて、都が運営する、家庭内の役割分担や育業について理解を深める特設サイトの発信を強化する。家事、育児、介護等の役割分担について行動変容を促すインタビュー記事や動画、男性向けの家事、育児、介護等のノウハウや体験談等をさらに充実させるとともに、更新情報を東京アプリでも周知して閲覧数の拡大を図る。これらの取組により、女性の家事、育児、介護等の負担が減少することで、仕事と育児、介護等の両立を望む女性が正規雇用、管理職として能力を発揮して活躍しやすくなることが期待できる。

第3に、アンコンシャスバイアス解消に向け、都民に対して意識啓発を行う。具体的には、都民が自らの有するアンコンシャスバイアスに気付けるよう、都はチェックシート、および事例集を作成し、広報やSNS等を通じて発信する。シートの質問項目は都民が取り組みやすいように Yes、No 形式での回答とする。加えて、その解説ともなる事例集ではチェック項目を家庭、地域、職場などのシーンごとに整理し、その思い込みを有することに伴う問題や影響を自分ごととして捉えられるように記載する。他方、性別による無意識の思い込みは幼少期から形成されることが多い。長期間かけて形成された意識の改革を図るのは容易ではない。そこで都は、学校と連携し、性別による無意識の思い込みをテーマとした出前授業も実施する。これらの取組を通じ、都民のアンコンシャスバイアスへの意識改革を図り、解消へと繋げていく。

社会経済状況の変化が激しい現代、首都東京の持続的発展を確かなものとするには、人口の半数を占める女性が力を発揮しやすい環境の創出が不可欠である。私は都庁職員としてこれらの取組を推進し、性別にかかわらず誰もが生き生きと暮らす東京の実現に貢献していきたい。

(約 1,320 字)

以上

講 評

難易度：A [易]

2025 年 12 月に制定された「東京都雇用・就業分野における女性の活躍を推進する条例」が背景となった出題だと捉えられる。LEC「東京都択一記述公開模試」教養論文の出題と同資料を含み、同様の問題意識に基づく問題だったため、LEC 模試受験者にとっては構想しやすい出題だったのではないかと。

資料が実質 5 つのため、これらすべてを用いて(1)における課題を 200 字程度にまとめるのが意外と難しかったかもしれない。そこで解答例では、資料同士に関連性を持たせずにそれぞれの資料から課題を抽出する記述形式をとっている。もちろん、資料 1 から抽出できる女性管理職比率の低さを改善するためにも、資料 2・3 から導ける課題への対応が必要だという課題設定も可能である。

出題可能性の高さが予想されていたであろうテーマである分、(1)で適切な課題設定が行えるのはもちろん、(2)で都の取組について多角的で説得力のある論述がどれだけできているかが評価の分かれ目となると考えられる。

LEC れっく 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド

(C) 2026 TOKYO LEGAL MIND K. K. , Printed in Japan

無断複製・無断転載・インターネット上への無断掲載等を禁じます。

KL25659